

# 芸振



大分県芸術文化振興会議

№. 94

平成7.3

## もくじ

国民文化祭に向かって	1
第13回国民文化祭基本構想 の策定にあたって	2
第30回記念大分県芸術祭賞 受賞者の喜び	3
第9回国民文化祭三重県大会 に参加して	4～5
平成6年度基金事業アンケート	6～7
事務局だより	8

■発行人：仲町謙吉 ■編集人：末廣利人

(題字 堤隆山)



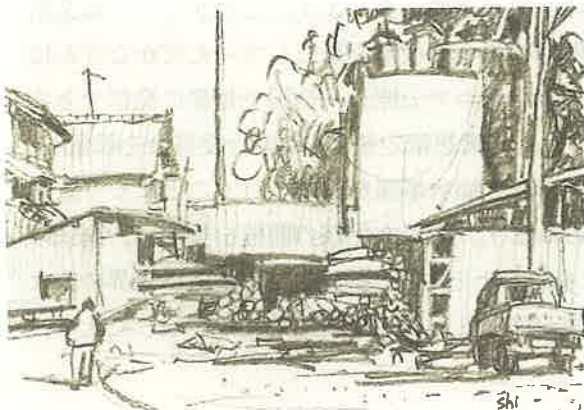
## 国民文化祭に向って

大分県芸術文化振興会議

会長 仲町謙吉

県下文化団体の連絡提携機関として昭和39年発足した大分県芸術文化振興会議は、平成5年で30周年を迎えることができた。これは先輩諸氏の尽力と会員の努力によるものである。思うに凡そ10年刻みに転機を創りだしている。昭和40年芸術祭開催、美術館建設運動展開。昭和52年・県立芸術会館の名称で美術館とホールを併設した文化施設として開館した。昭和60年、大分県芸術文化基金事業完全実施・芸振は事業体となり大きく変身した。同年知事の「文化創造元年の提唱」により「21世紀豊の国文化創造懇話会」(60-61年)「豊の国文化創造県民会議(62-平成元年)」が設置され21世紀へ県民文化を発展させるスプリングボードとして国民文化祭誘致の提言となった。このことなどにより「平成10年第13回国民文化祭大分県開催の決定」を平成5年にみた。このことも約10年目のことである。平成7年は、国民文化祭の実施について基本構想がまとめられる。愈芸振加盟団体の活躍の時がきた。国民文化祭を成功させるため、芸術祭30年の歩みの中

で築かれた大分県文化の特色を発揮されることだと信じる。全国に世界に発信する公演を期待し、世界・アジア等の文化交流の中でより質の高い表現を共に影響しあう喜びを感じとりたいものである。アマチュアの文化の祭典であることから幼児から熟年まで県民総参加による地域間や年齢相互による交流こそ大切なことである。「文化とは、本来人間が自からの内面・人間性を耕す営為である。」ことを忘れてはなるまい。



清水和雄 (県美術協会会員)

# 第13回国民文化祭基本構想の 策定にあたって



大分県教育庁文化課

参事 後藤 和 昭

近年、世界の社会経済情勢はソ連邦の崩壊、バブル崩壊等の影響を受け一部混乱を生じ、情勢は大きく変化しつつあります。一方、文化におきましてもマルチメディア時代に入り情報化が進む中で、新しい文化の発掘と創造が21世紀への課題とされるなど文化に対する意識は変わりつつあります。

平成10年に大分県で第13回国民文化祭を開催することが内定されました。

国民文化祭は、「文化の国体」とも呼ばれ、国民の各種の文化活動を全国的な規模で発表する場を提供することにより、文化活動への参加意欲を喚起し、新しい芸能、文化の創造を促し、併せて地方文化発展に寄与することを目的に、昭和61年度から東京都を皮切りに毎年、各都道府県の持ち回りで開催されております。事業としては、(1)総合フェスティバル、(2)シンポジウム、(3)分野別フェスティバルの3つの部門で構成され、県内一円で各市町村の文化施設を会場として開催されます。このため、県としても平成6年度から開催のための本格的な準備に取り組んでおります。開催にあたっては、基本構想、実施計画大綱、事業別実施計画を段階的に策定し、主催者である文化庁の承認を得て事業を進め本番を迎えることとなります。その基本となるのが基本構想の策定であり平成6年8月に基本構想検討委員会を設置し、各界各層から選任された委員により、検討を重ねて平成7年3月に結論を出すことにしております。

基本構想は、その文化祭をどのような方針で、どのような分野で構成し、どのようにして開催県の特徴を出し、どのようにして全国や世界に発信するかについて基本事項を定める、言わば国民文化祭の屋台骨であります。国民文化祭が成功するかどうかは、きちっとした構想の下で主催者、演出者、出演者が一体となり、特に出演する県内外の文化団体の協力が重要となります。したがって、県芸術文化振興会議に対する期待は大きく、国民文化祭大分開催の中心的役割を果たしていただかなければなりません。これまでに蓄積された大分の芸術文化を大きな舞台で公開し、全国や世界に発信できる最大の機会として関係者の期待は大きなものがあります。基本構想策定後は、県実行委員会を設置し、会場となる開催市町村の決定、出演する個人や団体の選考など順次事務を進めて行くこととなりますが、国民文化祭は県民総参加型のイベントを目指しております。国民文化祭の開催を契機に、国民の一人ひとりがゆとりのある生活の中に「心豊かな文化」を育むとともに、参加した全国又は世界の人々との交流が深まり、更に地域と地域が文化を通して交流が図られるならば国民文化祭が残した大きな遺産となるでしょう。

# 第30回記念大分県芸術祭賞

## 受 賞 者 の 喜 び

### ★ 県芸術祭賞

能を楽しむ会 宮永颯扇会

宮 永 育 子



此度の栄誉ある県芸術祭賞を賜り、心より厚く御礼申し上げます。舞台に生きる者としてこの上ない喜びです。「秋三題」は第一線の客演と豪華な三つの邦楽を紹介出来たのも、県芸術祭ならではの催でした。豊後唯一の能「清経」は全く新しい試みとして全国に類のない能・箏・日舞の結合作で主催団体・スタッフの御尽力で新鮮な刺激で取り組みました。分野の異なるものの調和の怖さ、日々、形をなす興奮は忘れ得ぬ収穫で、今後のよき起爆剤となりました。伝統継承の能の中に温故知新、冒険でしたが御協力下さった皆様に心より御礼申し上げます。この賞の重さを、国民文化祭に向け一層精進し、古典芸能の発展に尽力したいと祈念致します。

### ★ 功労賞

県民オペラ協会

伊 勢 敏 郎



今回、県芸術祭における功労賞を頂き、喜びと感謝の気持ちを強く感じている。県民オペラの一員として、キヤスト出演、合唱指導、演出補佐等いろいろな体験をさせてもらい肌で学び得たことは大きい。オペラは多くの人びとの連携によって創りあげていくものである。一人ひとりの力は貴重である。平成10年に大分県で開催される第13回国民文化祭までは、その一人として自分の成し得る位置で努力を続けて行こうと思っている。

### ★ 新人賞

大分県洋舞踊協会

又 見 有 紀



この度は、思いがけず県芸術祭新人賞をいただき、驚きと信じられない気持ちでいっぱいです。また受賞に際して、大分県洋舞踊協会の先生方、関係者の皆様方大変感謝致しております。バレエを続けて来て、賞をいただいたのは今回が初めてです。この貴重な賞に恥じないよう、今後もさらに練習に励むつもりです。

### ★ 特別賞

国際ソロプチミスト大分ーみどり 会長

得 丸 良 子



「能と箏曲と日舞」の共演。三分野の古典芸能が織りなす気魄のこもった「清経」の舞台は観客の皆さんに感銘を与えたことと思う。30周年記念の開幕行事という重責を果たすことができた安堵感と、新しい試みを成し遂げた喜びとが重なり感激も大きかった。また県芸術祭特別賞を頂いたことは、大分ーみどりの会員の最高の喜びであり名誉なことだと思っている。芸術文化の振興も念頭に置いてこれからも一層の精進を続けたいと思う。

## 第9回国民文化祭三重県大会に参加して



### オーケストラの祭典に参加して

大分交響楽団

第2回の熊本から参加しています。

回を重ねる度に、音楽を通して全国に一人又一人と友人が増え年に一度あえるのを楽しみにしています。

これは参加していつも思う事ですが、例えば、オーケストラに関しての役員は地元のオーケストラ団員がやれば、受け付けや練習内容、当日までの順備がもっとスムーズに行なわれるのではと感じます。

又これは困る事ですが、会場に一番便利な宿泊場は県外者に優先して欲しいと思います。地元の方は交通事情はわかってる事ですので。

大分での開催に少しでも役に立てばと思っています。



### ギター・マンドリンのしらべに参加して

大分マンドリンオーケストラ 会長 宮吉 寛

10月23日、三重県久居市で行われた「ギター・マンドリンの調べ」に当団から3名、フェスティバルオーケストラ部門に参加した。現地に着いて、駅には「ギター・マンドリンの調べ」の横断幕、通りには幟がズラリ、黄ジャンパーの市職員総出の取組み、まさに町ぐるみの「ギター・マンドリンの祭典」の観があった。会場は満員の盛況の中、全国のユニークな24団体が見事な演奏を繰り広げ、最後は全国から馳せ参じた有志120名の出演で「青きドナウ」と「マンドリンの群れ」を演奏し、六時間に及ぶ祭典の最後を飾った。



### 全国吟詠剣詩舞道祭を顧みて

大分詩道会少壮吟士 陶山 昇霊

全国各地で文化活動をされておられる方々が年に一度集い競演し、交流する国民の文化の祭典として始まり本年で第9回目となった。『うましくに、ひろがる世界』をテーマに秋晴の10月23日文化庁、三重県を始め多くの団体が主催して四日市市文化会館にて超満員の観衆のもとに大盛況のうちに終了した。これには各県より多くの出演者の協賛を得て前日より長時間熱心にリハーサルを行った賜と思う。当日は、地元三重県の青少年部による『偶成』を皮切りに全国各地の代表者50人による『祝賀の詞』の大合吟で会場の雰囲気を取り上げ続いて全国各流61団体の合吟による熱気に満ちた発表が行なわれ盛大な喝采を浴びた。昼間の式典に続いて第二部、第三部と盛り沢山な番組のもとに何れも素晴らしい内容であった為に観衆は殆んど立つ人はなく大喝采のうちに終了した。ところで、この祭典も大分県では平成10年を予定しているだけに、その際には大分県吟剣詩舞総連盟を中心に立派な祭典が出来るよう努力したいと思う。

## 第9回国民文化祭三重県大会に参加して



### 民謡・民舞の祭典に参加して

日本民謡梅幸会 会主 森山 幸吉

平成6年10月23日三重県桑名市民会館で開催された。全国各地で生まれ受け継がれてきた民謡の発表の場であった。伊勢詣に訪れた人々が伊勢音頭を口ずさむとか、三重県教育委員会より7月半ば大分県の伊勢音頭を発表してほしいと問い合わせがあり、早速発掘に取りかかり音程直し、三味線、太鼓、節付をしやっと出来上り発表が出来た。又もう一曲は三味線合奏で竹田市の荒城の月を静と働の引き分け佐賀関町の関の鯛釣り唄、国東地方のまで突き唄を作業的にアレンジして弾き大拍手を貰えた。他県に劣らない上出来と自負している。

大分県である場合は出演の時間厳守、会場の整理券の数、ホテルの確認、サービス、反省と共に今後の課題を痛感した。最後に補助金をいただき感謝の念で一ぱいである。

### 芭蕉フェスティバルに参加して

大分県立大分豊府高校二年 放送部 足達麻登香

私は放送部に所属し、朗読を中心とした活動を続けているが、今回、第9回国民文化祭芭蕉大会に出場するチャンスを得た。

開催地の三重県では、県全体でこの文化祭を成功させようという雰囲気伝わってきた。また、他県から参加していた私でも、自然とその雰囲気に溶け込めた気がした。

私の出場した朗読大会では、芭蕉の「伊勢紀行跋」を朗読したが、読みなれない古典だったので、練習が大変であったが、読み込むうちに、芭蕉の心が見えてきたように思う。初めての体験で緊張したが、十分な朗読ができたと思う。

5年後に大分で開催される時には、各部門の大会で、たくさんの「感動」が残るような意味のあるものになればいいと思う。私も、何かの形で参加したいと思っている。



平成6年度

# 基金事業アンケート

芸振会議で実施している、芸術鑑賞事業(ファミリー芸術劇場・学校巡回公演)及び地域文化活動事業(文化キャラバン)を県内11会場で行いました。会場の皆さんに感想(アンケート)を書いていただきましたので、紹介します。



4月3日

安心院町文化会館・文化キャラバン  
若柳流大分県協会

日本舞踊を中心に新舞踊もまじえた熱演に感動、本当に有難うございました。



7月19日

直入町下 下竹田小・学校巡回公演  
長湯小

大分大学混声合唱団

田舎の子供はどうしても本物の芸術文化に接する機会が少ない。"生"にふれ本物のよさがわかるのでは、親として望むところです。



6月11日

朝地町中央公民館・文化キャラバン  
大分県洋舞踊協会

舞台がせまく気の毒でした。初めての本格的なバレエに接し大変感銘を受けました。今後もお願いします。



8月5～9日

日田市中央公民館・学校巡回公演(絵画展)  
大分県美術協会

"絵の表現はということか、等々先生方の説明があり…。子供がその感動を表現できるように援助できたらと思いました。良いもの"見る・聴く、機会がほしい。



9月9日

津久見市 越智小学校・巡回公演  
久保泊小

大分県人形劇サークル協議会

人形使い、話し方とっても上手で次はなんだろうと興味をもたせる話とっても良かった。人形の動き、声の強弱等々子供の心をひきつけていて大変良かった。



10月15日

挾間町由布川小・学校巡回公演

大分県庁職員吹奏楽団

聞く・見る・歌うと様々な活動があり子供が生き生きしていました。大喜びです。

音楽や楽器に子供達がよく親しめたと思う。



10月17日

三光村山口小・学校巡回公演

コール銀河

歌やピアノ、もっと子供達の身近なものがよいと思う。ダイナミックな歌声で感心した。子供達と一緒に歌えるともっと楽しくなるのではないだろうか。



11月11～13日

佐伯市勤労者福祉センター・文化キャラバン

大分県美術協会(書道部)

今回は書道展会場も明るく楽しい作品であった。趣向をこらし大変良い、先生方の解説もあり大変素晴らしいと思いました。



11月18日

臼杵市民会館・ファミリー芸術劇場

アンサンブル ラ・メール

色々な工夫をこらしこの公演本当に楽しく聴かせていただきました。地元合唱団も出演するなど大変良かったと思います。

# 事務局だより

## 県立病院跡地の文化的施設に 「県民ギャラリー」を設置するよう 平松知事に要望

さる2月2日に芸振会長・大分県美術協会関係者で平松知事に「県民ギャラリー」を設置していただくよう要望しました。席上知事は、県病跡地の文化施設をより充実するため、「県民ギャラリー」の設置は積極的に検討したいと答えられた。

## 住所変更・

### 代表者の変更等は事務局へ

年度末・年度始を迎え会員の方々には、色々と御多様のことと思います。定期総会・会議などで、所在地（住所）変更・代表者の交替・事務局の異動などがありましたら、事務局まで連絡してください。

〈連絡先〉大分市府内町3丁目10-1  
大分県教育庁文化課内  
大分県芸術文化振興会議 宛  
☎ 0975-36-0522

## 平成6年度基金運営協議会開催

芸術文化基金事業の円滑な運営をはかるため、芸振会長の諮問機関として設置されている基金運営協議会の委員は次のとおりです。

そして平成7年度の事業概要・予算案などについての審議が近く開催され、諮問される予定です。

### 大分県芸術文化基金運営協議会委員一覧表

現 職	氏 名	勤務公署名
大分経済同友会代表幹事	安藤 昭三	大分銀行
大分合同新聞社常務取締役	江藤 嘉美	大分合同新聞社
大分県立芸術会館長	立木 綱子	大分県立芸術会館
大分県小・中学校長協議会会長	猪股 哲夫	大分市立鶴崎中学校
国際ソロプチミスト大分会長	山本 和子	茶道教授
大分県中小企業団体中央会会長	山崎 正巳	株式会社三信工業
大分県立芸術文化短期大学学長	安永武一郎	大分県立芸術文化短期大学
大分県商工会議所連合会会長	吉村 益次	株式会社 ダイコー
大分県企画総室長	木内喜美男	大分県庁
大分県教育委員会教育長	帯刀 将人	大分県教育委員会

## 94年版「大分県文化年鑑」の編集開始

編集委員・執筆委員の先生方には、大変なご尽力を頂いているところでありますが、本年度第1回の編集委員会で、編集方針・編集スケジュール等が決定しました。編集委員の先生方は、各ジャンル（執筆委員）の執筆をとりまとめ、事務局

に提出することになっています。また会員の方で資料提出等の依頼があった場合は、よろしくご協力くださるようお願いいたします。

なお編集委員・執筆委員の先生方は下記名簿のとおりですので、よろしくお願いいたします。

### ★「文化年鑑」編集委員及び執筆委員名簿

ジャンル	氏 名	ジャンル	氏 名	ジャンル	氏 名	ジャンル	氏 名		
文芸	まとめ小説	佐々木均太郎	美術	彫 刻	合田 習一	音楽	合 唱	中川 国生	
	現代詩	首藤 三郎		工 芸	佐藤 武郎		オペラ	小長 久子	
	短 歌	日野 正美		書 道	古庄 碧晃		軽音楽	中野 幸和	
	俳 句	香下 寿外		写 真	三重野 元		邦 楽	後藤 碩山	
	〃	足立 雅泉		宣伝美術	波多野義孝		民 謡	松井 猛	
	川 柳	佐藤真砂延		音楽	まとめ		山本 勝彦	吟 詠	深田 光壺
	俚 謡	土屋 北彦		声 楽	土谷 正公		舞踊	まとめ・洋舞	佐藤 朱音
美術	まとめ	十時 良	器 楽	辛島 光義	日 舞	花柳裕久英			
	洋 画	脇坂 秀樹	吹奏楽	斎藤 哲哉	民 踊	伊坂 香里			
	日本画	鈴木 忠実	作 曲	野崎 哲	演劇	まとめ	中沢とおる		
						演劇	自立演劇	小袋 丹	
							高校演劇	近藤 明義	
							児童演劇	首藤 悦爾	
							能 楽	緒方 基秀	
							生活芸術	藤原 嘉久	
							文化財	秋吉 心良	
							表 紙	首藤 詔子	
							カ ッ ト	宮崎 喜恵	

## 新 入 会 員 紹 介

番号	団体名	事務局所在地	代表者氏名及び住所		事務局長氏名及び住所		団体の目的	会員数	設 立 年月日	設立後の経過	備考
			氏 名	住 所	氏 名	住 所					
演劇 12	POKET THEATAR 少年地図		吉積 ゆみ		吉積 ゆみ		オリジナル作品 を中心に広く演 劇活動をする。	20名	平成6年 11月20日	現在、活躍中	

番号	氏 名	〒	住 所	電話番号
200	裏 文子			